

ヒユ科 ツルノゲイトウ属

ツルノゲイトウ (蔓野鶏頭)

Alternanthera sessilis (L.) R.Br. ex DC

自生環境

湿地、水田、あぜ など

原産地

南アメリカ

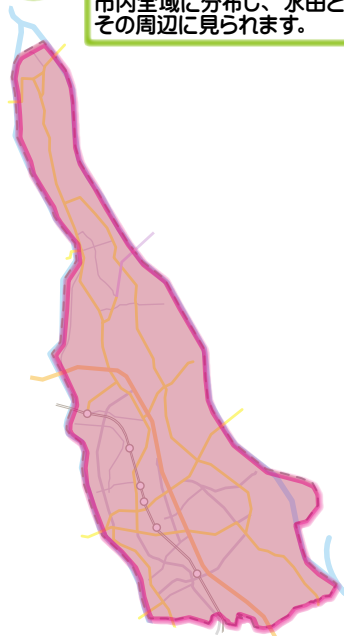
予想される被害



水田周辺に多く、地を覆うように広がります。そのため繁茂しすぎると、農業への影響はもちろん、他の希少な水田雑草の生育場所を奪ってしまうおそれがあります。

市内の分布状況

市内全域に分布し、水田とその周辺に見られます。



特徴

- ☆ もともとの原産地は南アメリカと推定されており、現在は熱帯地方を中心に世界の広範囲に分布しています。いつ日本に入ってきたのかはあまりよく分かっていませんが、現在は関東地方以西の田のあぜなどに定着しています。
- ☆ 茎は地を這うようにしてのび、節々から根を下ろしながら広がっていきます。茎はやわらかく、引き抜こうとすると簡単にちぎれ、根のついた断片が残り、そこからすぐに復活します。またちぎれた茎もすぐに根を出して新しい株として育つため、増える力がとても強い草と言えます。
- ☆ 夏から秋にかけて、葉のわきに丸い花の穂がつきます。花被片は白色で、花が咲き終わった後もそのまま残ります。果実は花被片の中で育ちます。大きくなると平たいハート形となり、花被片からはみ出します。

ナガエツルノゲイトウ

印旛沼で猛威を振るっている特定外来生物ナガエツルノゲイトウ。ツルノゲイトウに似ていますが水生植物で、葉の幅が広く、花の穂は葉のわきから出た「長い柄」の先につきます。今のところ市内にはナガエツルノゲイトウはありませんが、手賀沼周辺でも水の流れに沿って広がってきており、野田市でも注意が必要です。なおツルノゲイトウは特定外来生物ではなく、法的規制はありません。



葉のわきに丸い花の穂がつく



1つの果実は平たいハート形

かひへん花被片

たくさんの平たい果実が重なりあうようにつく



かひへん花被片

花被片は5枚で先がとがる



果実期も穂は白っぽい

特定外来生物

ナガエツルノゲイトウ との比較

今のところ市内ではナガエツルノゲイトウの記録はありません。



花の穂に長い柄は無い

比較 ナガエツルノゲイトウ



花の穂に長い柄がある

特定外来



わぴちゃんねる 千葉県野田市の植物を動画で紹介!

<https://www.youtube.com/channel/UCJvrXBJegnWATWd-UZsNzCA>

